

2020. 7. 29

畑 啓之

学習効果を上げるには、繰り返し学習と何がわからないかが分かること

過去のブログ 2014年01月26日より

勉強が出来るようになる。一芸に秀でる。これには学習が必要となりますが、なかなか思うようにはいかないのが現実です。特に期限を切られた、たとえば何かの試験を受けるときなどには痛感することです。

どうすれば受験に適應できる実力を付けることが出来るか。これには人それぞれに色々な方法、たとえば、ある人はともかく教科書を丸暗記する、またある人はその内容を図（チャート）にまとめ整理する等、あると思います。一番自分にふさわしい方法を選択すればよいと思います。

ただ注意しなければならないことは、実社会において教科書に記された内容が、そのままの形で試験に出たり利用できることはあまりないということです。学んだ事柄を有意義に利用できるようにするためには、学びの課程で「なぜ」と質問する習慣を持つことが必要でしょう。この「なぜ」の視点があれば、いままで見えなかったものが見え、気がつかなかったことに気づけるようになってきます。

ときどき、教科書以外にたくさんの参考書を買込み勉強している姿を見かけます。参考書は学習の理解を深めるために有効であるとは考えられますが、まず一冊（教科書）を確実にマスターし、参考書は更なる学習に利用すべきものでしょう。

教科書を何回も何回も繰り返して学習する。2回目からはマスターできていない部分を重点的に学習してゆく。この繰り返して教科書一冊が確実にマスターできます。その上で参考書等の関連書籍を見たときに、そこに記されている内容のほとんどは理解できるようになっているでしょう。理解できなかった部分は教科書の学習時に「なぜ」が足りなかった分、教科書にも記されていなかった新しい項目です。